



令和5年度 宿利原小学校だより

# 宿っ子 6月号



学校のホームページは上のQRコードからお入りください



## 子どもの安全を守る

校長 濱田 直子

アジサイの花がひときわ目立つ6月です。梅雨に入り、雨が多いため、晴れの日がとても貴重に思えます。

学校では、スクールバスから降りてくる子どもの姿を確認し、あいさつをかわしながら児童の様子を見るのが1日の始まりです。「子どもの安全を守る」ことは学校の大切な使命です。

ところが、「子どもの安全を守る」という視点に立った時、最近気になるのがSNS等によるトラブルです。ほとんどが家庭の中で大なり小なり起きていることかもしれません。幸い私が赴任してからトラブル等の情報は聞いていませんが、情報化社会が急激に進み、今後児童がトラブル巻き込まれないともかぎりません。

不特定多数のやり取りの中で、人物が特定されないことをいいことに悪意ある投稿をしたり、1人に対して複数の人達が攻撃したりと、トラブルの様相は様々です。また、内容についても、個人に対する誹謗・中傷や仲間はずれ、勝手な憶測による噂を拡散させる等が挙げられます。「言葉」が持つ「怖さ」を感じます。「言葉」は、私達がコミュニケーションを交わす時に一助をなす、重要なツールです。あいさつとして使えば、コミュニケーションのきっかけになります。文章にまとめ、自分の考えや意見を伝えることができます。ただし、使い方を間違えると、前述したようにトラブルの原因にもなります。人を傷つけたり、悲しませたり、怒らせたりします。ある言葉に関わる実験で、プラスの言葉かけをした植物とマイナスの言葉かけをした植物では、生育に差があるという結果が出ています。植物には、心や感情があると唱える研究者もいます。伝えられる「言葉」によって、様々な気持ちや感情が芽生え、その後の行動に影響を与えます。「言葉の力」を活用し、子どもへの声かけにも活かして、日頃から言葉の大切さを考えられる環境をつくりたいものです。

また、使用の時間や内容等によるトラブルも後をたちません。動画やゲーム・出会い系サイトなど金銭的不利益や健康被害、命に関わる事案まで毎日報道されています。現代においてパソコンやタブレット、携帯など生活の中で無くてならない必需品になる中、どのように使用していくかが問われています。特に子どもにとっては、魅力的で充実した道具です。しかし、成長過程の中にいる子どもには、自分自身で制限をかけることは大変難しいことです。ここで、大切な役割を担うのが大人です。「大切なあなたの安全を守る」ためにどう使用するかを話し合い、家庭での使用ルールを具体的にすることが益々必要になります。



日々成長する宿利原の大切な子どもたちです。学校、地域、家庭が一体となって「子どもの安全を守る」ために、一層協力しながら見守っていければ嬉しいことです。

宿小フェイスブックはこちらから→

